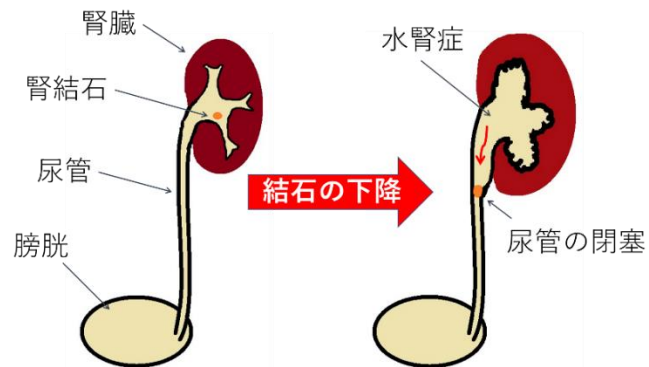


死ぬほど痛い！尿路結石

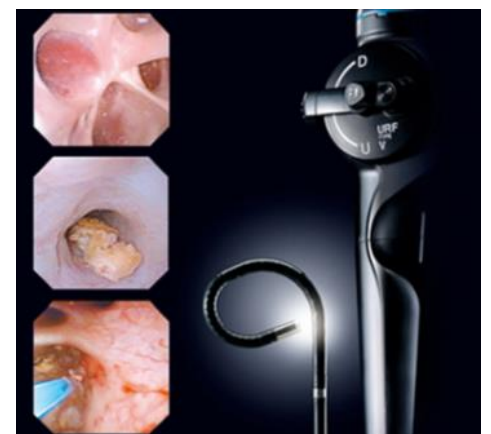
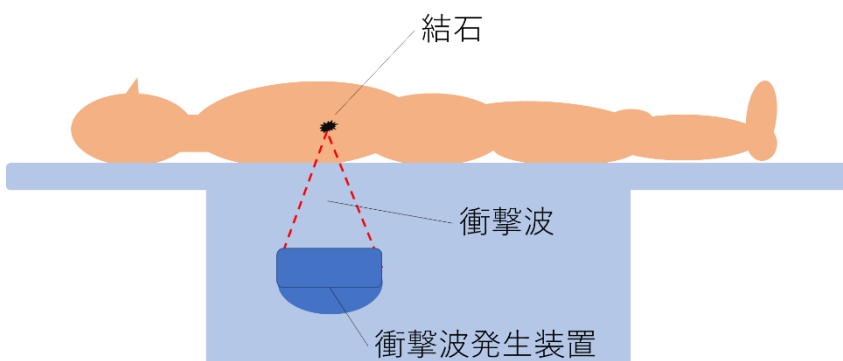
泌尿器科部長 能勢 宏幸

当院における尿路結石治療についてご紹介いたします。
 尿路結石とは、腎臓でできた結石が尿管（腎臓と膀胱をつなぐ管）に下降して尿の流れをせき止め、腎臓が腫れて（水腎症）、背中に激しい痛みをもたらす病気です。結石にかかった患者さんは「人生で一番の痛み」「出産より痛かった」と言われ、救急車で来院される方も多いです。命に係わることは非常に稀ですが、死ぬほど痛い病気であり、できるだけ早く、体への負担が小さい治療を心がけております。



当院には体外衝撃波結石破碎装置、各種内視鏡、結石破碎用のレーザーがあり、あらゆる部位の尿路結石に対する治療が可能です。

今回は、特に一番体への負担が小さい治療である体外衝撃波結石破碎術 (ESWL) についてご紹介いたします。ESWL とは体の外から衝撃波を当て、結石を細かく砕き、尿の流れで流し出す治療です。外来手術で行っており、基本的に入院の必要はありません。結石の大きさ、部位等にもよりますが1~2回の手術で治療を完結できることが多いです。合併症ですが、血尿、排石に伴う疼痛を認めることがあります。結石の部位、大きさや腎臓の状態によっては ESWL が適さない場合もあります。その場合には他の治療法を相談しましょう。



2017年度は35回、2018年度は102回、2019年度は90回実施しました。2018年度の治療回数が特に多いのは、水害の影響（他施設の状況、水不足による脱水）が大きかったと思われます。

また、2020年10月に最新ESWL装置を導入しました。これにより今まで以上に低侵襲で確実な治療が可能となります。当院では泌尿器科医2名その他、放射線部、手術部、救急部の協力のおかげで速やかな治療体制を整えております。

地域の皆様の健康に役立てるよう、引き続き尽力してまいります。

目の前の人急に倒れてしまったら、あるいは人が倒れているところを発見したら、きっと誰でも慌ててしまいます。ある程度、手順を知っていれば少しは落ち着いて行動できるかもしれません。ここでは、成人の救命処置の手順についてご紹介します。

◆ステップ1 安全確認

倒れた人に近づく前に、ご自身の安全を確認しましょう。車道などで、周りを確認せず飛び出してしまうのは大変危険です。

◆ステップ2 反応（意識）の確認

肩を優しく叩きながら、倒れている人の耳元で、「大丈夫ですか?」と大きな声で呼びかけて、その反応を確認します。

◆ステップ3 119番通報と応援の依頼

呼びかけても反応がなければ、心臓が止まっている可能性があります。大きな声で助けを呼びます。助けが来たら、「あなたは、119番通報してください」、別の方に「AEDを持って来てください」など、具体的に依頼をします。ただし、周りに誰もいない場合には、119通報をし、人が倒れて、反応がないことを伝えてください。携帯電話でそのままかけることができます。



◆ステップ4 呼吸の確認

胸やお腹の動きを見て、普段通りの呼吸をしているかどうかを10秒以内で確認します。反応はないけれど、呼吸をしている場合には、次のステップには行かず、様子を見ながら救急車の到着を待ちましょう。

◆ステップ5 胸骨圧迫（心臓マッサージ）

反応がなく、普段通りの呼吸がない場合（胸やお腹の動きがない、しゃくりあげのような途切れ途切れの呼吸）、また、その判断に自信が持てない時には、心臓が止まっていると判断して、胸骨圧迫を始めます。圧迫は、**胸の真ん中**を、両手を重ねて**強く**（約5cmの深さ）・**速く**（100～120回/分）・**絶え間なく**圧迫します。圧迫と圧迫の間は、十分に力を抜いて胸が元の高さに戻るようにします。可能なら1～2分ごとに（疲れる前に）交代しながら実施します。



◆ステップ6 AED（自動体外式除細動器）の使用

AEDが届いたら、まず電源を入れましょう。蓋を開けるだけで電源が入る機種もあります。AEDから音声メッセージが流れますので、メッセージに従って行動してください。

現在、呉市では救急要請～救急車が到着するまでの時間は約7分です。心臓が止まってしまうと、1分1秒も無駄にすることができません。倒れている人に声をかけること、救命処置を行うことはとても勇気のいる行為ですが、救急隊が到着するまでに、側にいる人が、“気づいて、声をかけ、行動する”、それが救命の第一歩になります。

また、現在、新型コロナウイルス感染症予防に関して注意が必要な状況です。そのため、上記の救命処置を行う際には、マスク（あれば手袋）の着用と、可能であれば倒れた方の口元をマスクかハンカチなどで覆ってください。実施後には、手洗いや手指消毒などを行ってください。

冬の感染症対策

感染対策室師長 土井 純子

新型コロナウイルス感染症が流行している中、インフルエンザや感染性胃腸炎が流行するシーズンを迎えます。

インフルエンザは例年12月から3月頃に流行します。この冬はインフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時に流行する可能性があります。感染経路はどちらも飛沫感染と接触感染であり、基本的な対策は同じです。手洗いや手指消毒、マスクの着用に加え、日常生活においてソーシャルディスタンスの確保等の「新しい生活様式」を実践し、一人一人が感染対策を徹底することが流行の抑制につながります。



感染予防の基本は**手指衛生**です。現在ほとんどの施設や店舗には手指消毒液が設置してあり、多くの方が手指消毒をしています。しかし、手指消毒液をほんの少量だけ使用しあっという間に終わっている方を見かけます。手指消毒液は1プッシュしっかりと押し切り、まんべんなく、特に指先を意識してしっかりと擦り込んでください。

マスク着用は飛沫感染対策にかかせませんが、鼻がマスクからはみ出ている方を見かけます。**鼻から顎までしっかりと覆って**ください。

冬期感染症の流行が始まる前に、ご自分やご家族が正しく手指衛生やマスクの着用を実践できているかどうか確認しましょう。

インフルエンザ対策には**ワクチン接種**が推奨されています。予防接種を受けてから効果が現れるまで2週間かかり、効果が持続する期間は約5ヶ月程度とされています。10月から11月中に予防接種を受けることが理想的です。12月上旬までの接種をおすすめします。予防接種により、感染を防いだり、重症化を軽減できることがわかっています。ご高齢の方や持病（心疾患、肺疾患、糖尿病、がんなど）がある方は、積極的に検討してください。



感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などが胃腸内に感染することで起こる疾患です。多くは食品や汚染された水から感染します。冬期に多いのが**ノロウイルス**によるものです。感染力が強いため、特に注意が必要です。下痢、嘔吐、腹痛などが主な症状です。調理の前後や食事の前、トイレの後は丁寧に手洗いし、加熱が必要な食品は十分に加熱してください。調理器具は十分に洗浄したあと、**塩素系漂白剤**で消毒しましょう。

夢を叶える仲間と環境のある“呉共済病院看護専門学校”

看護専門学校副学校長 中村朝枝

皆さん、呉共済病院に附属の看護学校があることをご存知でしょうか。本校は1904年（明治37年）に開校した歴史と伝統のある学校で、これまでに2800名以上の看護師を養成してきました。その伝統は脈々と続き、卒業後は広く社会に貢献しています。

本校は3年課程で1学年35名の少人数制でアットホームな雰囲気のある学校です。学生のほとんどは高等学校卒業後に入学していますが、中には社会人や大学卒業後に入学し、看護師を志す人もいます。

私たち教職員は病院スタッフの協力を得ながら、医療の現場に即した実践力のある看護師の養成を目指し日々学生と共に頑張っています。

今年は、新型コロナウイルス感染予防対策として、4月中旬から6月初旬まで臨時休校になり、授業がどうなるか学生も教職員も不安でした。しかし、呉共済病院のサポートにより、学生が自宅に居ながら授業が受けられる体制を逸早く整えることができました。パソコンの画面を通しての授業に学生も教員も初めは少し戸惑いましたが、皆が協力し学習を進めることができました。今回のことを通して、一人ひとりが知恵を出し力を合わせれば、大きな力となり皆で乗り越えられること、多くの方々に支えられていることを改めて実感致しました。



学内での看護技術演習



看護の志を新たにする宣誓式



スポーツ交流大会

看護に興味・関心のある方、本校の受験を考えておられる方は、学校案内や学校生活等について、個別に説明できる機会を設けておりますので是非お問い合わせください。

また、ホームページでは、学校生活やイベント、入学試験等について紹介しております。

【令和3年度入学生の入学試験日程】

1. 指定校・一般推薦 令和2年11月5日（木）

2. 一般入学試験 令和3年1月15日（金）

詳細については下記までお問い合わせください。

(0823) 26-7425 平日9時～17時

学校ホームページ

